

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川原中川原28番地1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

令和3年度 理事 評議員

新体制でスタート

平素は当法人に対しまして、ご支援ご協力を賜り誠にありがとうございます。

6月の選任解任委員会・評議員会・理事会において承認されました。引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

監事

・森川まなみ
 ・亀田 智史

評議員(任期令和3年～令和7年)

・高田 裕 (開業医・法人産業医)
 ・神代 俊児 (中川原地域)
 ・太田 知二 (中川原地域)
 ・荒井美穂子 (NPO法人神戸ろうあ協会 事務局長)

理事長

・大矢 暹 (ひょうご聴覚障害者福祉事業協会) ・平田 幸也 (特養あすくの里施設長)

理事

・本郷 善通(公社)兵庫聴覚障害者協会役員
 ・仲井 正(公社)兵庫聴覚障害者協会役員
 ・小林 泉(公社)兵庫聴覚障害者協会役員
 ・鳥越 月美 (兵庫手話通訳問題研究会) ・小坂 淳子 (学識経験者)
 ・星 百合香 (兵庫県手話サークル連絡会会長) ・岩本 吉正 (兵庫聴覚障害者協会役員)
 ・狭間 孝 (業務執行理事・淡路ふくろうの郷 第三者委員(任期令和3年～5年) 施設長) ・山本 紋子 (兵庫聴覚障害者協会役員)
 ・眞木 崇江 (業務執行理事・神戸長田ふくろう 小坂 淳子 (評議員・学識経験者) 事務局長)
 ・濱田 良介 (業務執行理事・中川原高齢者障がい者地域ふれあいセンター管理者)

毎年この季節になると高知から便りが届きます。今年もおいしそうな茄子と立派なスイカがたくさん届きました。上村由子様です。ふくろうの郷ができたころからの応援です。また、南あわじ市の堤きよみ様(手話サークル三原)から今年もブルーベリーの木が、ありがとうございます。

退任のご挨拶

三根 一乗

今般、家庭の事情をもちまして、ひょうご聴覚障害者福祉事業協会理事を辞任いたしました。長年にわたってご指導いただきました大矢理事長はじめ関係者の皆さま方に感謝申し上げます。

心残りの最も重要な問題の一つに介護職員の専門性に応じた経済的処遇の問題があります。専門性の高い職種であるにもかかわらず、正当な経済的処遇がなされておりません。この原因は1998年に提言された国の「社会福祉基礎構造改革」に求めることができます。この提言の法制化が、「障害者自立支援法」であります。

思い返しますと、本協会初代理事長を務められた池尻重義先生は、兵庫県保険医協会理事長を務める中で、障害者運動、特に聴覚障害者運動に深く関わってこられました。当時、私は池尻理事長のもとで活動しておりましたから、ごく自然な形で聴覚障害者運動の拠点としての「ふくろうの郷」設立運動に参加しました。協会活動、主としてふくろうの郷での活動を通じて、皆さま方から物事を見る確かな目を養っていただいたことをありがたく思っております。

私の所属団体である兵庫県保険医協会では医療、福祉、保健の分野においては市場原理も利益負担も相容れない制度であることを踏まえた活動を行っております。福祉関係諸団体との一層の連携強化を求めて退任のご挨拶いたします。

神戸市での新しい拠点づくりの第一歩が踏み出されました。国の福祉に対する予算措置は誠に厳しく、多額の自己資金を必要とします。この状況を



初夏まつり(6月20日開催)

**祭りだ
わっしょい わっしょい**



▶ どれにしようかと迷われ
決めかねている入居者さん

今年も昨年同様、入居者・職員のみで、初夏まつりを開催しました。

今まで出来ていた自分の目で見て手に取って買い物する楽しみ、また施設外への行事への参加や誕生日のための外食などが出来なくなつて2年。入居者さんもストレスが溜まつてきていただけに、初夏祭りでの買い物や、普段と違った料理が待ち遠しかった様子で、自分で見て手に取って買い物をし、買ったものを美味しそうに食べる様子、その喜ばれている表情が見られて私たち職員も嬉しかったです。

またお祭りということで、入居者さんに夏の雰囲気を感じていただきたくて、一部ですが浴衣や甚平を着ていただきました。ある入居者さんは、「浴衣初めて」「可愛い浴衣、嬉しい」と、話されました。模擬店のほかに、お祭りらしくヨーヨーすくいやシャボン玉もありました。コロナで各地のお祭りが中止される中、私たち職員も入居者さんたちと一緒に楽しむことが出来ました。



▲ヨーヨーすくい上げて喜ぶ芝田さん

午後からは職員によるダンス

と、ふくろう大学の一環の演劇講座によるコロナ退散の神様「アマビエ」のオープニングから始まり、入居者さんと一緒に「3匹の子ぶた」の劇や「大きな古時計」「翼をください」などの手話歌を、会場にいる入居者さん・職員全員で楽しみました。飛び入り参加もあり、みんなで大笑いして大いに盛り上がりました。入居者さんからいつもの「楽しい」の言葉だけでなく「面白かった!!」のお言葉をいただきました。

入居者さんだけでなく職員もストレス発散できたお祭りになったかと思えます。



◀ 熱演する入居者の高木さん

来年は家族様はじめ、従来のような形での開催ができることを願っています。

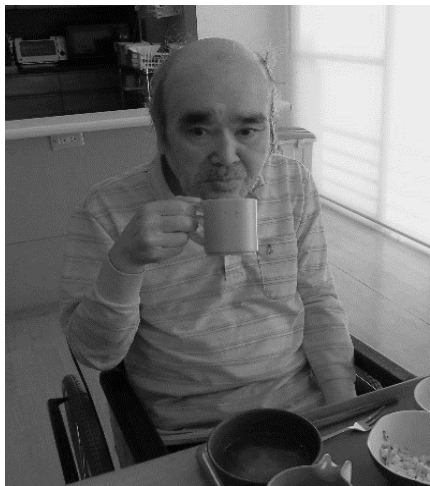
(生活支援員 伊達 美紀)



ふくろう物語

とひひろみず

土肥広水様



昭和28年8月25日生まれの68歳。寡黙な方です。それでも日々少しずつ、ひと言、またひと言と話して下さった人生について、ご紹介させていただきます。

県立洲本実業高等学校 機械科を卒業後、生まれ育った淡路島を離れ見聞を広めたいとの思いから、九州は大分工業大学(現・日本文理大学)へ進学し卒業されました。その後、学んだ経験を活かして建具のサッシを扱う仕事を勤められました。淡路島に帰っ

てからは、島内随一の寿司屋松葉寿司で送迎バスの運転手のお仕事もされていたそうです。

令和元年11月、脳の病気を患って入院されました。手術やリハビリを経て、歩行器を使って歩くことができるようになったところまで回復して退院されました。しかし令和2年2月、転倒による顔面骨折という大怪我をされ再び入院することとなりました。退院された後も主にベッド上での生活となり、移動には車椅子が必要になりました。一人暮らしをされており、生活が困難なものとなってしまいます。

令和2年10月26日、淡路ふくろうの郷へ入所されました。先にショートステイを利用され始めたころは話しかけてもお返事はなく、食事も全く食べられず経口栄養剤を口にさせるだけでした。しかし、日々お話ししているうちに頷いたり首を横に振ったりしていただけ

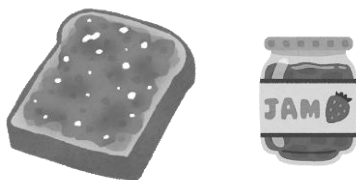
るようになり、ひと言ですが声を出してお返事いただけれることも増えてきました。何故、ほとんど喋られないのか、食事に手をつけられないのか、土肥さんは過去について未だ多くを語られません。それでも職員の問いかけに少しずつ反応していただけるようになり、打ち解けていくことができていく実感があります。

今ではパンや果物や甘いお菓子、麺類なども召しあがるようになり、好みが変わるようになってきました。栄養状態が改善されたことで、入所当初は痩せていたそのお姿も、ずいぶんと健康的になりました。毎食前に「パンにはジャムとマーガリンどちらをお付けしましょうか?」と聞いた後の、ささやくようなお返事を聞けるのが楽しみです。

今後は、更なる土肥さんのお気持ち聞かせていただけるよう、また他の入居者の方とも食事や入浴、ふくろう大学などの行事等を

通して、交流を持つていただけるお手伝いができるようにと思います。

(生活援助係 東田 学)



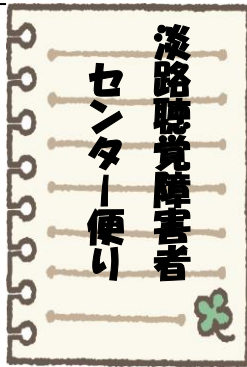
生きた時代・社会

- 昭和27年 サンフランシスコ講和条約
- 昭和28年 土肥さん誕生
- 昭和44年 NHKテレビ放送 高度経済成長期
- 昭和47年 土肥さん 洲本実業高校に入学
- 昭和51年 土肥さん 大分工業大学を卒業
- 沖縄返還
- 天安門事件



7月・8月 ふくろうの暮らし

- 7/16(金) ふくろう大学書道講座
- 7/20(火) ふくろう大学絵手紙講座
おのころパン出張販売
- 7/21(水) ふくろう喫茶
- 7/23(金) 手話講座
- 7/24(土) 第111回理事会
- 7/30(金) ふくろう大学料理講座
回想法
- 8/ 2(月) ふくろう理髪店
- 8/ 3(火) ふくろう大学演劇講座
- 8/ 4(水) 誕生会
- 8/10(火) ふくろう工房ちぎり絵
- 8/13(金) ふくろう工房手芸



洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3

仲間と助け合って 働ける喜び

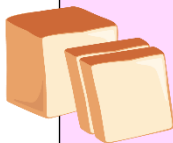
橋本津多子さんは、おのころ屋が開店した当初からのメンバーです。姫路聾学校高等部を卒業後島内の電気部品製造の大企業に勤めていました。周りが聞こえる人ばかりで口だけで会話をするので分からないうことだらけ、一人取り残されているという孤独感、不満がありました。

22年間勤めた会社を思い切った退職し、自動車の教習所に通い、免許が取れたらちょうどその頃、就労継続支援B型事業所の「おのころ屋」開店となり、誘われてお菓子作りをすることとなりました。最初は覚えるのに苦労したけれど、10年あまり経った現在で



▲ムードメーカーとして
場を和ませる橋本さん

おのころ屋に通所 パン・菓子作りに誇り



橋本津多子さん



▲協力しながら作業をする仲間と職員
(左端が橋本さん)

は、通所歴は一番古く、特に食パン作りでは一番早くマスターし、店にはなくてはならない存在となりました。お菓子は作りは、バター、砂糖、卵の入れ時など細かいタイミングが求められます。それによって出来具合が大きく違ってきます。それをきいて

ちりマスターし、他の通所者や異動となって来る職員も頼りにするほど。職員からは、器用でなんでも段取り良く動き、またキレイ好きで、他の通所者のことも気にかけてくれると高評価。みんなが忙しくてピリピリしている時も何気なく話題を提供し、職場の場を和ませるムードメーカーだとの定評があります。

橋本さんは、「おのころ屋では手話や身振り、指文字などを使って仕事のことも話せ、お互いに助け合って仕事で

きる喜びがある。お客さんが自分が作ったパンなどをおいしかったと感想を言ってくれるのも嬉しい。おしゃべりも楽しむことができ、イベントや講演、コロナに関する情報なども得られる。自分の居場所としては最高の場所。

これからも仲間と一緒に働きたいし、新しいメニューにトライしていきたい」と意欲的です。



8人の全員参加で

「手話通訳者養成講座開講式」

コロナ禍による緊急事態宣言下の6月15日(火)、短時間しか会場を利用できない状況でしたが、感染対策を十分行い、開講式を行うことを決めました。全員参加で、受講者の中には店を早めに閉めて駆け付けた方もおられるなど全員が時間通り来られ、手話を向上したいとの熱い思いを感じました。

一人一人自己紹介で講座にかけの思いを話していただき、早速講座に入りました。

ろう講師の橋詰一則さんは「手話の技術向上には技術だけでなく普

段からろう者の生活を知ることが大事」。また健聴講師の平松弘子さんは「言葉通りの表現ではなく、いかに映像的・具体的な表現ができるか。ろう者が楽に見えるか。」と早速心構えなどについて助言がありました。

今後のみなさんの成長が楽しみです。



▲開講式で一人一人思いを語る

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター

兵庫県本市中川原町中川原 222-2
☎656-0002
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



「ふれあいセンターの あゆみ」職員研修会

6月24日(木)午後5時半から約1時間、ふれあい研修会を実施し、18名の参加がありました。まず、左記のとおり「ふれあいセンター経緯・地域とのつながりについて」濱田職員がお話をされました。



職員からの感想

- ・ふれあいセンターがなぜあるのか、そこからデイサービスやおのころの家がどのように設立されてきたかが良くわかりました。(矢田)
 - ・地域の方々とセンターで働くスタッフが協力していくことで継続出来る場所だとわかりました。(興津)
 - ・ふれあいセンターは、地域と共に在るもの！と改めて感じました。(高木)
- 次回は9月22日(木)にふれあい研修会を実施する予定です。(文責 橋詰)

「ふれあいセンター経緯・

地域とのつながりについて」

○平成23年3月中川原中学校閉校
校舎の活用に関して連合町内会を中心にアンケート調査実施。要望順位の高い項目で「高齢者の為の健康予防、増進施設としての活用」が挙がる。建物の管理・改修、事業の継続性という問題から連合町内会と法人が管理・運営することに。「ふれあいセンター検討委員会」を設け、月1回話し合い結果、平成24年7月ふれあいセンター開所。

○ふれあいセンターの現活動・事業

地域・法人の協働・共同事業

おたがいさま中川原・ふれあい広場桜ヶ丘、ふれあい工房桜ヶ丘、地域活性化に向けた活動(イベント開催)

法人単独事業 居宅介護支援事業所桜ヶ丘、デイサービスセンター桜ヶ丘、おのころの家、淡路聴覚障害者相談支援事業所

○地域からの協力

ふれあいセンター運営への参画、行事・イベント開催の協力、行政への働きかけ、おのころの家作業拡大(農業)への協力、おたがいさま中川原の応援者・コーディネーターとしての協力→ボランティア・職員としての協力

食パン製造に

挑戦しました

昨年11月おのころ屋に勤務し始めて7ヶ月が過ぎました。パンを作ることは初めてで、自分ひとりに合った支援ができる分出来るのか？という不安が大きいのですが、先輩職員やベテランの利用者さんに教えていただきながら少しずつ経験を重ねて出来ることが増えてきたように思います。



▲発酵完了した生地を成型している様子

私は利用者を支援する立場ですが、今は利用者さんに助けてもらうことのほうが多いです。おのころ屋の利用者さんは皆ベテランです。パンの製造、

「新しい仲間に入って 仕事楽しかった」

山田ひろみさん

6月14日(月)から、おのころの家に通所しています。初めの日には午後から帰りたくなつたけど、なんとか1日頑張ってお仕事をしました。それでも2回目の6月21日(月)は朝から迎えに来てくれるのを待っていました。玉ねぎの作業やお掃除を頑張っています。お昼ご飯も美味しいです。これからも頑張つて来ようと思います。

(おのころ屋 船越)



とある放課後、いつもの公園に遊びに行くと、地域の子どもたちがサッカーをしていました。それを見ていたH君が「彼らと遊びたい！話がわからないから通訳をお願いします」と伝えてきました。そして、一緒に遊ぶことになり、地域の子どもたちは「聞こえないの、へえ」といった様子でしばらく話すと

今日のふくろうっこたち

〒653-0836
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
電話 078 798 7940
FAX 078 798 7941

神戸長田ふくろうっこの杜

ゴールはあっち、あなたはこっちのチームね！」と身振り手振りで教えてくれるようになりました。ふくろうっこたちも理解した様子で、ボールを一生懸命追ってゴールを決め、とても嬉しそうでした。次の週末友だちの顔は覚えられたよ！と言って公園に出かけていきました。地域の子どもたちもどうしても伝えられないことがあればスタッフを呼んで、手話で伝えてほしいという場面もみられました。一緒に遊びたい、仲良くなりたいと思った子どもたちの行動力や受容力は本当にすごいものがありますね。

心の音楽を楽しむ♪

6月12日に手話ダンサーのKANUKUさんをお呼びして、ふくろうっこたちと手話ダンスを楽しみました。KANUKUさんも聴覚障害があり、神戸聴覚特別支援学校出身であることに子どもたちはますます身近に感じ、彼から多くのことを吸収したいという様子がみられました。もっと上手になってみんなをアツと言わせてやりたいという子どももいま

した。7月も指導にお越しいただく予定です。

そして、7月は私たち職員にとって初めての夏休みとなります。不安やドキドキもありますが、子どもたちと一緒に企画を通して多くのことを吸収しながら取り組んでいきたいと思っています！

(放課後等デイサービス支援員 山本芙由美)



▲公園での楽しいひととき♪

青空がきれいです！

新型コロナウイルス ワクチン接種について

高齢者のコロナワクチン接種が始まりました。利用者さんたちもワクチン接種を終わった方、これからの方とそれぞれです。

接種について不安に思っている方が多く、利用者さん同士で話が尽きない様子です。接種に対する不安や副反応についてなど、先に接種が終わった方に様子を聞いたり、2回目の予約はいつ？などお互いの状況を話し合っていました。

予約日が7月以降の方や接種はしないといわれる方もいてそれぞれに情報提供や支援が必要だと思っています。

(デイサービス 木谷玲子)

神戸施設建設募金

2021.7.1現在 募金合計額

98,419,217 円

(プレート募金 363人)

目標 1 億円まで、

1,580,783 円

直近3ヶ月の推移	4 / 30	6 / 1	7 / 1
募金累計額	97,130,462	97,687,097	98,419,217
月間募金額	1,800,601	556,635	820,120
1億円まであと	2,869,538	2,312,903	1,580,783
1億円目標達成率	97.1%	97.7%	98.4%